



ぜぜようちえんだより



令和7年8月
大津市立膳所幼稚園
園長 村上 淳子

園内にある豊かな自然環境を活かして

幼稚園の園庭には、季節を通して、花が咲いたり実が成ったりする大きな木がたくさんあります。子ども達は、自然の様々な恵みに触れて遊ぶことで、変化や不思議さ、美しさを身体で感じています。



梅の実ごちそう

みんなで「かんぱい〜」

梅の実いっぱい！

梅の木の下に実が落ちていたのを発見した子ども達。5歳児は梅の実を使って、切ったり、擦ったり、つぶしたりしてお料理作り。3歳児は、お気に入りのカップに集めることを楽しみました。

木の上にまだまだたくさん実が成っていることに気づくと台の上に乗ったり、長い棒を使ったり、どうしたら実が採れるか考えていろいろな方法で収穫しました。採れた梅でジュースづくりに挑戦。苦労して収穫をして作ったジュースは、「頬っぺた落ちるくらい美味しい」かったです。

花や実を使って

石鹸でフワフワクリームを作り、紫陽花、姫リンゴ、カキ、ナツメ、お茶の実、パチュニアを飾って、「パフェ」や「ケーキ」ができました。

石鹸と水の量を考えて、思い通りのクリーム作りに何度も挑戦したり、園庭にある花や実の色や形、大きさを活かしながら、工夫して飾る姿が見られました。



幼児期に培われた学びを小学校へ

夏休み。膳所学区の保育園・こども園・幼稚園・小学校の先生達と幼児教育アドバイザーが共に『幼保小の架け橋期プログラムについて』話し合いを重ねています。子ども達を真ん中にした語り合いを通して、それぞれの保育・授業の質を高め、子ども達の育ちをつないでいきたいと考えています。

*幼保小の架け橋期とは、5歳児から小学1年生の2年間を想定し、幼稚園・保育園・こども園から小学校への生活を緩やかに安心していけるよう文科省が推進している取り組みです。幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目的としています。



編集後記

膳所幼稚園長 村上 淳子

90年の間大切に育ててもらった花や木。季節になると花が咲き、実が成って、落ちて…。「いい匂いがする」「きれいな色」と子ども達が五感を通して匂いや美しさを感じています。受け継がれてきた自然環境のおかげで、四季折々の変化を楽しみ、美しさや不思議さに心動かす経験を重ねていけることに感謝して、

これからも、子ども達と、心豊かな園生活を過ごしていけるよう努めたいと思っています。

また、『幼保小の架け橋期の教育・保育について』話し合いを重ね、膳所学区の子ども達が安心して就学に向かえる体制づくりにつなげていきたいと考えています。